

NO40

軍需工場となった学びの場

所在地は松阪市殿町（近鉄・JR「松阪」下車 徒歩15分）



松阪工業高校は戦時中、軍需工場として使用されていたという歴史をもっています。

1945年に入り戦争の長期化にともなう資材難や労働力の不足、そして空襲被害が続出するなか、全国の海軍工廠に緊急疎開命令が下りました。海軍工廠とは全国に14カ所あった海軍直営の軍需工場で、船や航空機、各種兵器などを製造していました。鈴鹿にあった鈴鹿海軍工廠も県内外の5地区に疎開することとなり、その一部が松阪工業高校に移されました。

高校には弾丸製造の54もの工作機械が運び込まれました。

松阪工業高校百年史によると、軍需工場となった学校は講堂の床板がはずされ、作業の流れをよくするために、各室間の壁がとり壊されたりしたそうです。

学びの場がこのような悲しい使われ方をし、学生たちが兵器を作るために働かされていたということをわたしたちは忘れてはならないと思います。

20061125 掲載